

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第140号 R7. 8. 27

社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員

ー豊能町夏季教職員研修 開催ー

夏季休業中、教職員の資質向上のため、教職員研修会を開催しました。社会が急速に変化していく中、教職員にも学び続ける姿勢が必要です。今年度は、「人権教育」「学力向上」「授業のユニバーサルデザイン」「アセスメント」の4つのテーマを設定し、開催しました。町内の保幼小中の先生方だけでなく、町外からもたくさんの先生方にご参加いただきました。

研修会での学びを2学期からの教育活動につなげ、生かしていきます。



桃山学院大学
松久眞実教授のご講演
(ユーベルホール)

研修会に参加された先生方の感想を紹介します。

- 「無関心は何もしないことを意識的にやっている」という言葉に胸を打たれました。「何かあったら言ってね」ではなく、「自分を開ける環境設定を」という所を見直したいと思いました。(人権教育研修参加者)
- 学びの理解度も意欲も様々な子どもたちが、1つの教室で1つの同じ方法で学ぶのは難しく、担任だけではサポートできない場面を多く感じています。自分たちで進めるシステムをつくることの大切さを学びました。(学力向上研修参加者)
- 子どもたちに対して、“好意に満ちた声かけ”をいろいろな場面で行っていきたくです。静かな環境の教室づくりを2学期も続けていきたくと思います。(授業のユニバーサルデザイン研修参加者)
- チーム学校として、専門家を交えて、多くの視点で一人一人のことを見守る大切さを改めて感じました。日々の観察の積み重ねが、小さな芽の状態に対応することにつながるため、大きな問題となる前に動いていきたい。(アセスメント研修参加者)

15年間をつなぐ教育をめざして

夏季休業中、吉川保育所とふたば園で保育公開をしていただきました。保育所・幼稚園・小学校・中学校の先生方が、一緒に保育を参観し、意見交流を行いました。



保育の様子



意見交流の様子

想いは、言葉を越えて ～オイスカとの交流～

7月14日、吉川小学校にてオイスカ「子どもの森」計画子ども親善大使のみなさんと交流会が行われました。インドネシア・フィリピンで自然を守るために植林活動を行っている子ども代表5人の皆さんが、初めに環境問題やマングローブの植林などの活動について英語や日本語で伝えてくださいました。

交流会では、Bumble bee というフィリピンで流行しているダンスを披露してくださり、インドネシアの伝統的な手づくりの道具も見せていただきました。その後、1年生の児童が、フィリピンの言葉で挨拶をしたときには満面の笑みが会場を包みました。心のこもった折り紙やお礼のお手紙を渡すときには、気持ちもほぐれ、活発に質問が出て素敵な交流会になりました。

交流会の最後には、別れを惜しんで、子どもたちが声をかけに行き、身振り手振りも交えながら笑顔でコミュニケーションをとっていました。一生懸命「伝えよう」とする気持ちが、言葉を越えてあたたかなつながりをつくり、大変貴重な経験をすることができました。

豊能町は、グローバル人材の育成のため、保育所・幼稚園でも英語に親しみ、1年生からは、授業でも英語を学んでいます。言葉だけでなく、世界への扉をひらく気持ちも育てていきたいと考えています。



交流会の様子

So Beautiful!! Toyono Town

7月30日、新しいALT2名が、豊能町に赴任となりました。

早速、8月1日に行われた、豊能町新転任者研修に参加し、豊能町の豊かな自然や貴重な石仏を知り、「なんて美しい!(so beautiful!)」と、大変感動されていました。

私たちにとって、日常の風景。しかし、何気ないことも、違う視点から見ると大変価値があったり、新たな発見があったりします。違う国の視点から日本を見ること。そして、違う国や文化を知ること、自分たちの価値観を広げ、豊かな心を育てます。

VUCA(ブーカ)と言われている急速に変化し、予測不能な不確実な状況のなかで、ともに力を合わせながら、乗り越えていく力を育んでいくためにも、様々な国との新しい出会いは宝物です。ちがいを豊かさに変えるのは、教育の力です。グローバル人材の育成に向けて、新たな仲間を迎え、ともに取り組んでいきます。



【写真右】ファーンズ ルビオ
クリスティーナ ローザさん(アメリカ出身)

【写真左】ペガロ テリセ アビゲル
ブラザさん(フィリピン出身)

～「余野十三仏」にて～

